



冬の米塚

大昔、阿蘇大明神が収穫した米を積み上げ、その米を掬って貧しい民に与えたためにてっぺんが窪んだという言い伝えが残る米塚。うっすらと雪をかぶった姿は、新緑の頃とはまた違った風情を見せる。

阿蘇の草原再生をめざして

「阿蘇草原再生協議会」が発足しました

2005年12月2日、第1回阿蘇草原再生協議会が開催されました。阿蘇の草原環境を後世に引きつぐため、阿蘇内外の多様な主体が参加・連携しつつ自主的に問題に取り組んでいけるよう、自然再生推進法に基づいて設立されたもので、団体・法人61、個人42、計103名ものメンバーが集まりました。

この日は計85名が出席、はじめに全員で協議会設置要綱案を承認し、正式に協議会が発足しました。会長には高橋佳孝氏（近畿中国四国農業研究センター畜産草地部主任研究官）、会長代理には山内康二氏（財団法人阿蘇グリーンストック専務理事）が選任されました。

そして、跡ヶ瀬牧野組合をはじめ5団体から草原環境保全に関する取り組みについて報告があったあと、協議会の基本的な考え方や組織構成について検討し、4つの小委員会の設置を決定しました。

その後、参加委員が小グループに分かれて意見交換し、草原の現状認識や協議会に対する今後の期待、要望などを出し合いました。

今後は、阿蘇草原再生に関する全体構想づくりに取り組んでいくとともに、それぞれの活動の実施者による計画案の協議や連絡調整などを行っています。

